May 2015 subject reports

Japanese A language and literature

Overall grade boundaries

Higher level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 13	14 - 30	31 - 46	47 - 59	60 - 70	71 - 83	84 - 100

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 11	12 - 27	28 - 41	42 - 56	57 - 69	70 - 84	85 - 100

Higher level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 9	10 - 13	14 - 17	18 - 20	21 - 24	25 - 30

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 9	10 - 13	14 - 17	18 - 20	21 - 24	25 - 30

提出された成果物の特徴および適切さ

ほどんどの抜粋は、難易度・長さが適切であるとともに、ディテールや重要性にも富んでおり、生徒は適切なレベルの知識と理解を示していました。しかし内容が十分に複雑でなかったり、構成が整っていなかったりする抜粋もありました。また、ディスカッションにおいて「あなただったら結末をどのように変えますか」や「登場人物の中であなたが一番好きな人は誰ですか」や「あなたはこの本からどんなことを学びましたか」など、作品全体についての一般的な質問をする教師が見受けられました。教師の質問が抜粋に焦点をあてたものであれば、生徒はより深い理解を示すことができたはずというケースがいくつかありました。

評価規準に基づく受験者の到達度

A) 課題文（抜粋）についての知識と理解

大多数の生徒は抜粋の内容を理解していることを十分に示していました。高得点の生徒は、抜粋を元の作品の文脈に正確に位置付けたうえで、焦点をしぼり、抜粋に言及することでしっかりとした裏付けを行いながら独自の解釈を展開していました。しかし、作品全体のテーマやあらすじ、作者や作品執筆時の時代背景、個人的な感想など抜粋に関係のないコメントに多くの時間を費やした生徒もいました。

B) 文学的特徴とその効果に対する理解

ほとんどの生徒が言葉遣いや表現技法について言及していました。しかし、抜粋内で扱われている主題や考えに適切に関連付けたうえで、読者にどのような効果を及ぼすかまで述べているコメンタリーは少なかったです。表現技法の専門用語を羅列し、それがこの抜粋で具体的に何を意味するのかを示さない解答もよく見られました。一方、高得点の生徒は抜粋の構成についての分析も含め、これらがどのように意味の形成に貢献しているのか適切に述べていました。

C) 構成

生徒にとって、自分の考えをどのように提示するのかは最も難しいタスクでした。高得点を得た生徒は自分の考えをきちんと整理して、約１０分間で一貫性のあるコメンタリーにまとめていました。ほとんどの生徒は行ごとの説明のみに終始し、それが相互にどのように関連しているかに述べていないことが多く、中には適切な序論もなく突然一行目から始まり、きちんとしたまとめもなく終わる生徒もいました。

D) 言語

全体的に生徒は流暢に日本語を話し、言語使用域（レジスター）やスタイルも適切でした。言葉遣いは明確で文法の間違いもほとんどありませんでした。専門用語もよく使われていましたが、その基本的な意味をきちんと理解せずに間違っていることもよくありました。また、教師、生徒ともにあまり一般的ではないカタカナ語を多く使うケースが見受けられました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 生徒にできるだけ多くの練習の機会を与え、約１０分間継続して話すことができるか、この１０分間でどの程度内容について話せるか、どのようにアイデアを組み立てるべきかを確認させてください。
- 作品全体のあらすじや作者の人生、時代背景などを述べる必要はありません。抜粋に集中し、背景情報への言及は本当に必要がある時のみに留めるべきです。
- 表現技法に関する専門用語の羅列は求められていません。誤用を避け、用語そのものより、抜粋から具体例を挙げてその効果をきちんと述べることが大切です。
- コメンタリーにはもっと明快な構成が必要です。特に聞き手を意識して、初めにこれから話すことの簡潔な紹介をすることが大切です。つまり、抜粋の簡単な紹介や作品内における位置付け、このコメンタリーでどのような順番で話していくかなどを手短に説明することが必要です。最後にはコメンタリーの簡単なまとめを述べることも期待されています。
- 教師は、ディスカッション中に、生徒がコメンタリーできちんと説明しなかった重要な側面や、より深い分析をするべき点など、生徒の理解できていることを引き出すような質問をしてください。
- ディスカッション中に生徒が質問にすぐ答えない場合、生徒は答えがわからないのではなく考えていることが多いです。教師が生徒の代わりに答えたり質問を言い換えたり、早いペースで別の質問に進んだりすると、生徒は自分が理解していることを示すことができません。もう少し忍耐強く待つことが必要です。

その他のコメント

教師がコメンタリーの途中で間違いを指摘したり直したりすることは禁じられています。内部評価の要件や採点規準をきちんと読んで確認するようにしてください。『「言語 A:言語と文学」指導の手引き』の要件を満たすことは教師の責任です。教師は個人口述コメンタリーの課題文に考察を促す問いを２つ用意しなければなりません。１つは内容、もう１つは表現技法に関するものにするべきですが、２つとも内容についての問いになっているケースが見受けられました。他にも、問いに番号は付けてはならないのに付いていたり、抜粋した課題文に題名と著者名が書いてあったり、抜粋に行数が付いていなかったり、口述コメンタリーが 10 分をはるかに超えて教師とのディスカッションの時間がほとんどなかったりと、要件を満たさないものがありました。

評価の実施後、教師は評価規準に則して採点を行い、1/L&LIA に評点とその理由を日本語で書きます。しかし、中には英語で書かれているものや、生徒の当日の体調や緊張の度合い、これまでの努力など、採点規準には関係ない記述を含むものがありました。このような情報はモデレーション（評価の適正化）に役立ちません。指導の手引きを詳細まで読むことが大切です。

International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

Higher level and Standard level written tasks

HL Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 11	12 - 18	19 - 23	24 - 28	29 - 33	34 - 40

SL Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 9	10 - 12	13 - 14	15 - 17	18 - 20

評価規準に基づく受験者の到達度

タスク 1

規準Aーラショナルにコース、学習知識との関連性の記載がなく、そのため知識の裏付けが解らないケースが多々あり、また、読者対象や作成意図などが不明瞭なケースも見受けられました。

規準Bー上述のように、タスク内容が言語と関連付けられておらず、社会問題を論ずる新聞記事や、観光用のチラシが提出されたケースもありました。

規準 Cー数例を除いて、テキストタイプはおおむね適切でした。

規準 Dー不適切な語彙の使用や文章表現が見受けられました。

タスク 2 (HL)

規準 Aー 正式な論文において内容を簡潔にまとめる要旨とラショナルを混同しているケースが見られました。

規準Bー設問に対して論理的に論旨を展開している論文、または、選択した設問に対して的確に解答している論文は少なく、また、論題を明記していない論文も多く見受けられました。

規準 Cー序論―本論―結論と論旨が展開されず、アイデアを反復するケースが多々見られました。論のキーワードの定義をせず、論述を進め、意味不明の文章も多く見受けられました。

規準 D－ SL の生徒と比べると言語の誤用は少ないといえます。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

まず、LAL のプログラムの主旨、内容を熟読し、タスクとして何が求められているかを明確に把握し生徒を指導することが必要です。特に、パート 3 と 4 で、各学校で同じテキストに基づいて同じタスクを提出する傾向がみられますが、もっと幅広い選択肢を与える方が生徒にとってメリットとなると思いました。

タスク 2 に関しては、論文の質の向上のため、書き方の指導を徹底する必要があります。語彙の誤用、ミスタイプなどは提出前に訂正させることで減点を避けることができるはずです。

その他のコメント

A2 から LAL へとプログラムが移行し、当初に比して、ほとんどの受験校において学習内容が充実してきました。とくに、パート１とパート２では、さまざまなテキストが幅広く適切に導入されていると思います。しかしその反面、いまだに、テキストとして一篇の新聞記事をリストしているケースもありました。受験者のプログラムに対する理解度も進んでいるように見受けられます。しかし、パート１・２は、あくまで言語の観点から学習するものであり、タスク１ではその学習に基づいた内容が求められているにもかかわらず、言語と関連性のない社会問題が論じられているケースも見られました。

Higher level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 2	3 - 5	6 - 10	11 - 12	13 - 14	15 - 16	17 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

内容に関する明瞭な表現や展開──多くの生徒がテキストの細かい説明はできていたものの、必ずしもトピックや内容をさらに発展させてテキストの深い分析ができていたわけではありませんでした。テキストを引用しながらその説明を長く続けるだけで、自身の分析を広げられていない生徒が少なからず見られました。そのためごく少数の生徒しかテキストの分析をさらに広い視点でトピックや関連事項と繋げて発展するレベルに達していませんでした。生徒の側にテキストの「説明」とテキストの「分析」は異なるものだという理解があると良いと思いました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

技法、レトリック、文体（スタイル）、語調などの説明はよくできていました。多くの生徒がテキストを適切に引用し、それらの特徴を複数のテキストにおいて比較・対比していました。おおむね生徒はそれぞれの必要事項を満たしながらタスクをこなすように訓練されているようでした。一方で、ごく少数ではあるもののテキストに基づいていない分析をしている答案も見受けられました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

強みとも弱みともなる点として、生徒は内容・テキストの性質を説明するために引用をすることはよくできていましたが、その反面、（テキストに関して自身で分析を展開するためではなく）引用をするために引用を始めるケースも多く見受けられました。結果として、生徒が伝えようとしている要点が伝わりにくい（または要点がない）こともありました。技法や語調など細かな分析をできるのは良いことですが、そこに留まるのではなく、それらの細かい点をテキストの内容やそこから広がる自分なりの考察に使い、両者をつなげることが求められます。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

生徒は深い内容考察を伴う簡潔な文章を書くための指導を受ける必要があります。生徒の中にはただただ長い文を、自分なりの考察やポイントなどを何も広げずに書き続ける者もいましたが、そのような場合、内容に沿った個々人の分析を表現するという点において、質ではなく量に重点が置かれているように見えました。そのため多くの生徒がテキストについて説明はしているものの、必ずしも内容やトピックの理解を発展させつつ、効果的にテキストを対照・分析しているわけではありませんでした。中には量を書くことで安心しているような姿勢を感じさせる答案もありました。大切なのは、自身の能力を発揮しながらトピックに則して効果的かつ簡潔な文章を書くことです。生徒には、量を書くことが重要なのではなく、限られたスペース（字数）の中で最大限の効果を発揮すること、効果的に書くことが重要なのだということを学んで欲しいものです。

その他のコメント

単語、漢字、スペル等、小さなミスが多く見受けられました。またライティングスキル全般においてさらに向上の余地があるでしょう。

International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

課題文の解釈において、考察を促す問いを手がかりにしなかったため理解を十分に示すことができなかった生徒が何人かいました。また内容の解説はできているものの、テキストの種類および目的、対象となる読者層がきちんと書けていなかったり、課題文から根拠となる適切な例を挙げていなかったりする生徒もよくいました。文体や形式についても、それが意味を形成するうえでどのような効果があるのかなどの分析が不足していました。特に写真の使い方や見出しの役割についての言及は少なかったです。誤字脱字が非常に多く、漢字で書くべき箇所をほとんどひらがなで書いている生徒も多くいました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

大多数の生徒は課題文の内容や文脈についてよく理解しており、漢字も読みはできることが明らかでした。作者の言語や表現技法についての認識もあり、また、語彙力があり言葉遣いや文法の間違いも少なく、言語使用域（レジスター）や文体（スタイル）も課題に適切でした。構成も序論、本論、結論と十分に明快で一貫性もあり、与えられた時間内で自分の考えをまとめていました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

テキスト１

大多数の生徒はテキスト１を選び、ひきこもりという社会現象を取り上げた内容の把握ができていました。高得点の解答は単に内容をまとめるだけでなく、出演者の視点を明確にして、その発言のメッセージや意図をきちんと分析していました。また、このテキストはホームページからの抜粋で、挿入されている写真が実は動画であることや前半と後半の文体の違いや語調にも注目し、テキストの目的を的確に理解していました。一方、きちんと理解ができていない解答は内容の説明のみの分析不足で、中には一般論としてのひきこもりを論じているものもありました。

テキスト２

テキスト２を選んだ生徒は少なく、その中で「読み手によってこのテキストの解釈がどのように異なるか」を論じた生徒はごく僅かでした。テキストの構成については、最後の段落の捉え方にはさまざまな解釈がありましたが、適切に分析することは難しかったようです。しかし、数字や比較の多用のもたらす効果に対する理解はきちんと示されていました。筆者が経済学者だと気づいた生徒は、多くのデータ

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

を使い説得性のある文章をどのような読者層に向けてどのような目的で書いているのかも把握していました。さらに全体を通しての語調や視点についても言及していました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

生徒に筆記試験問題の評価規準をきちんと理解させてください。生徒は、考察を促す問いが課題文の解釈において手がかりを提供していることを知っていなければなりません。生徒はテキストタイプやテキストの目的、対象となる読者層をきちんと書き、課題文から適切な例を挙げて議論を裏付けなければなりません。文体や形式についても、単に専門用語を使うだけでなく、それが意味を形成するうえでどのように相互に作用するのか、また読者にどのような影響を与えるかを論じることが必要です。同様に写真の使い方や見出しにも注目し、その効果を分析することが期待されています。キーワードを含め漢字練習は日常的に続けていくことが大切です。

その他のコメント

原稿用紙の使用は任意で、他の科目と同様の解答用紙を使うことも可能ですが、原稿用紙の場合にはペンを使って答案を作成してください。試験官はスキャンされた原稿用紙をコンピューターのスクリーン上で読むので、鉛筆で書かれた答案は非常に読みにくい場合があります。また、得点には関係ありませんが、何度も書き直すことや雑な手書きもできるだけ避けてください。

Higher level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 9	10 - 12	13 - 16	17 - 19	20 - 23	24 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

多くの生徒にとって難しかったのは、設問が意図するところが何かを正確に理解し、そのすべてに思慮深く批判的に答えることでした。設問の含意を理解しないで一部しか答えていない小論文もよくありました。また、設問の内容に答えるだけで作品の文脈や文学的特徴とその効果についての言及が十分でない小論文もありました。作品のジャンルについて言及し、文学的特徴の例を設問と明確に関連づけながら、それが作品の意味を形成する上でどのように貢献しているかを論じているものはあまり見られませんでした。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

ほぼすべての生徒が作品の主題や内容だけでなく、作者や作品の時代背景についても十分な知識を持ち合わせていました。また、作品からの引用も多く、小論文の準備を周到にしていました。大多数の小論文は２つ以上の作品をバランスよく扱いながら、序論と結論を巧みに関連付け明快な段落構成ができていました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1. 作品の書かれた文化的・社会的背景および作者の視点がよく認識されており、ほぼすべての生徒が作中の人物像に自分自身を重ね合わせることについて適切に書いていました。高得点の解答はどのようにしてそれが起こるかを分析し概念的に論じていましたが、自分を特定の登場人物に重ね合わせることができる理由を個人的レベルで書く生徒も多少いました。

2. この設問を選んだ生徒はいませんでした。

3. 教訓を一般的なメッセージと解釈したり、作品のどのような特色を通して読者は教訓を学ぶのかに答えていない生徒が多くいました。一方、教訓の意味するところをきちんと理解し、学習した作品の人物設定や時代・場所設定や語り手の意図的な選択などに結びつけ、自分の考えを明確に述べる生徒もいました。

4. 多くの生徒がこの問題を選び、ほぼ全員作品がその時代の価値観をどのように反映するか適切に答えていました。しかし、どの程度かを明確に答えている生徒は少なく、時代の価値観を時代背景と捉えている生徒も何人かいました。

5. 成長の解釈に説得力がなかったり、成長の過程は述べていても、その過程の意義と効果について論じていない小論文が多数ありました。また、作品の書かれた時代背景などを考慮に入れてないものも多くありました。

6. 作中人物の死に至る状況やその原因などの説明はよくできていましたが、それが読者によりどのように異なって解釈され得るかについての考察は難しかったようです。一方、異なる読み手によるさまざまな解釈の可能性を論じ、高い評点を得た小論文もいくつかありました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 小論文がどのように評価されるのかを確実に理解できるよう、評価規準の詳細を生徒と共有してください。字数制限はありませんが、長い小論文が高得点になるわけではありません。作品について学習したことのすべてを原稿用紙７～８枚を費やして書いても、設問について思慮深く批判的に独自の議論を展開していなければ高得点は期待できません。
- 小論文は設問をきちんと読み、要求されていることを理解し、その全部に答えなければ高得点になりません。また、単に作品全体のあらすじや主題を書くのではなく、設問に対する自分の考えを裏付けるために、作品から適切な具体例をあげることが必要です。文学的特徴についても設問に関連付けて作品から例をあげ、それが作品の意味を形成する上でどのように貢献しているかを論じなければなりません。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

- 生徒は作品の文脈や文学的特徴を具体的に理解していなければなりません。
- 漢字の練習を継続的に行うことは、小論文のためばかりでなく、語彙も豊かになり読解力も増すことに繋がります。時間の制約がある中たいへんですが、ぜひ続けてください。

その他のコメント

原稿用紙の使用は任意で、他の科目と同様の解答用紙を使うことも可能ですが、原稿用紙の場合にはペンを使って答案を作成してください。試験官はスキャンされた原稿用紙をコンピューターのスクリーン上で読むので、鉛筆で書かれた答案は非常に読みにくい場合があります。また、得点には関係ありませんが、何度も書き直すことや雑な手書きもできるだけ避けてください。

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 3	4 - 7	8 - 9	10 - 13	14 - 18	19 - 22	23 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

多くの生徒にとって難しかったのは、設問が意図するところを理解し、それに思慮深く答えることでした。キーワードに対して一般論で答えたり、設問の一部にしか答えていない小論文も多くありました。設問の内容に答えるだけで作品の文脈や文学的特徴とその効果についての言及が十分でない小論文も多くありました。文学的特徴の例を設問と適切に関連づけながら、それが作品の意味を形成する上でどのように貢献しているかを論じる小論文は稀でした。また、誤字脱字や修辞法の用語の誤用も目立ちました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

ほとんどの生徒は作品の主題や内容だけでなく、作者や作品の時代背景についても十分な知識を持ち合わせていました。また、作品から具体例をあげ、自分の考えを裏付けることもできていました。大多数の小論文は２つの作品をバランスよく扱いながら、序論と結論を適切に関連付け段落構成も明快にできていました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1. 作品の書かれた文化的・社会的背景および作者の視点もよく認識していて、ほぼすべての生徒が作中

の人物像に自分自身を重ね合わせることについて適切に書いていました。高得点の解答はどのようにしてそれが起こるかを分析し論じていましたが、なぜその登場人物に自分を重ね合わせることができるのかという個人的な体験を書く生徒もいました。

2. この設問を選んだ生徒はいませんでした。

3. 教訓を一般的なメッセージと解釈したり、作品のどのような特色を通じて読者は教訓を学ぶのかに答えていない生徒が多くいました。一方、教訓の意味するところをきちんと理解し、学習した作品の人物設定や時代・場所設定や語り手に結びつけ、自分の考えを適切に述べる生徒もいました。

4. ほぼすべての生徒が、作品がその時代の価値観をどのように反映するかについて適切に答えていました。しかし、どの程度かを明確に答えている生徒はごく僅かで、時代の価値観を時代背景と捉えている生徒も何人かいました。

5. 成長の解釈に説得力がなかったり、成長の過程は述べていても、その過程の意義と効果について論じていない小論文が多数ありました。また、作品の書かれた時代背景などを考慮に入れてないものもよくありました。

6. 作中の人物の死に至る状況やその原因などの説明はよくできていましたが、それが読者によりどのように異なって解釈され得るかについての議論は少なく、難しかったようです。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 小論文がどのように評価されるのかを確実に理解できるよう、評価規準の詳細を生徒と共有してください。
- 小論文を実際に書き始める前にブレーンストーミングをしてアウトラインを書くことが大切です。１時間半の試験時間内で２つの作品について学習したことの全部は書けません。時間配分に注意して、設問に関連することのみを簡潔に書き、提出する前に読み直す時間を設けるように練習してください。
- 設問をきちんと読み要求されていることを理解し、その全部に答えなければ高得点にはなりません。また、単に作品全体のあらすじや主題を書くのではなく、設問に対する自分の考えを裏付けるために、作品から適切な具体例をあげることが必要です。文学的特徴についても設問に関連付けて作品から例をあげ、それが作品の意味を形成する上でどのように貢献しているかを論じなければなりません。
- 生徒は作品の文脈や文学的特徴を具体的に理解していなければなりません。
- 大切なのは表現技法に関して作品に言及し具体例を挙げ、その効果を書くことです。SL の生徒にとって難解な修辞法の専門用語の使用は必要ありません。
- 漢字の間違いは採点に差し障りのない程度であれば減点対象になりませんが、継続的に漢字の練習を行うことは大切です。小論文のためばかりでなく語彙も豊かになり読解力も増すことに繋がります。時間の制約がある中たいへんですが、ぜひ続けてください。

その他のコメント

原稿用紙の使用は任意で、他の科目と同様の解答用紙を使うことも可能ですが、原稿用紙の場合にはペンを使って答案を作成してください。試験官はスキャンされた原稿用紙をコンピューターのスクリーン

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

上で読むので、鉛筆で書かれた答案は非常に読みにくい場合があります。また、得点には関係ありませんが、何度も書き直すことや雑な手書きもできるだけ避けてください。